

令和7年度 中心拠点病院の事業総括

国立成育医療研究センター アレルギーセンター



アレルギー中心拠点病院としての活動

～国立成育医療研究センター～

- ・アレルギー疾患に係る医師に対する研修支援事業
～A・B・C 研修の実施について～
- ・アレルギー疾患患者や家族等に対する相談事業
～医師によるアレルギー電話相談室～
- ・アレルギー疾患医療診断等支援事業
～医師によるアレルギー電話相談室～
- ・アレルギー疾患医療におけるMSWの取り組み
～MSWカンファレンスなど～



アレルギー疾患に係る医師に対する 研修支援事業

(A研修) 成育アレルギー中心拠点セミナーの開催

- 毎月WEB開催 (基礎系・臨床系の隔月)

(B研修) 小児アレルギー診療短期重点型教育研修

- 実地研修参加者に対する充実した研修内容を目指す
(Total Allergist研修)

(CD研修) 専門修練研修

- 総合アレルギー診療エキスパート育成、臨床研究論文・学位取得のサポート





最新の知識と技術の双方を学ぶことができ大変有意義でした！

系統だったレクチャーでアレルギー診療全般を学べました。

勉強会では大量の最新論文やトピックスに触れられ、刺激を受けました！



成育で「最新の小児アレルギー診療」について学ぶ、10日間の短期研修！
5日間コース新設!!

例年、11月以降の期間はお申し込みが多く、ご希望に沿えないことがございます。前半（①～⑤）の期間へのお申し込みをおすすめいたします。



National Center for Child Health and Development

国立成育医療研究センター



2025年度 小児 アレルギー 診療 短期重点型 教育研修プログラム

● 参加者募集中！

卒業後20年以上、開業医、
小児科以外の医師の方も
ご参加いただけます！

中心拠点病院におけるB研修 「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

Day1	Day2	Day3	Day4	Day5	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
カンファレンス					カンファレンス				
(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)
外来見学			外来見学	外来見学					
アトピー教室+	喘息教室+ (第4週)		食物アレルギー教室+	乳児教室+					
	食物負荷試験見学 または 外来見学 *負荷試験は午後 にも実施しています。 センターにご確認下さい。	食物負荷試験 (1名担当)	外来見学	外来見学	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	喘息教室+ (第4週)	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	食物負荷試験 (2名担当)	食物負荷試験 (2名担当)
外来見学					外来見学				
皮膚テスト	食物負荷 慢性持続察	食物負荷 慢性持続察	気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	病棟/ミニレクチャー		皮膚テスト	食物負荷 慢性持続察	食物負荷 慢性持続察 SLIT教室 (第1, 3, 5週)	食物負荷 慢性持続察
ガイドンス(メンター)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習	病棟/ミニレクチャー /ヒアリング(研修 担当)		ガイドンス(メンター)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習	病棟/ミニレクチャー /ヒアリング(研修 担当)	病棟/ミニレクチャー /ヒアリング(研修 担当)	
16:15-回診	(チーム回診)	16:15- 病棟カンファレンス	(チーム回診)	16:00- 回診	16:15- 回診	(チーム回診)	16:15- 病棟カンファレンス	(チーム回診)	16:00- 回診
	輪読会			ジャーナルクラブ				ジャーナルクラブ	
17:00									



2週間 (10日間,従来型) タイプ

9-17時 研修必須

月・火・木・金
疾患別初診
教室参加後に本診

総合アレルギー科行事

休憩

食物アレルギー教室

毎週木曜日、
第2火曜日、第3月曜日 10:00

消化管アレルギー
初診診察(教室なし)

第1,3火曜日
水曜日

喘息教室

第4火曜日 10:00

尋麻疹・葉剤アレルギー
初診診察(教室なし)

第1,3火曜日

SLIT教室

第1,3,5木曜日 13:30

アトピー性皮膚炎教室

第1,2,4月曜日 9:45

乳児教室

毎週金曜日 10:00



中心拠点病院におけるB研修 「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
月	火	水	木	金
カンファレンス (8:30 チーム回診)		(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)
外来見学			外来見学	外来見学
アトピー教室* (第1, 2, 4週)	喘息教室* (第4週)	食物負荷試験見学 または 外来見学 *負荷試験は午後 に実施しています。 センターにご確認下さい	食物アレルギー教室*	乳児教室*
外来見学		食物負荷試験 (1名担当)	外来見学	外来見学
皮膚テスト	食物負荷 帰宅時診察	食物負荷 帰宅時診察	気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	病棟/ミニレクチャー
ガイダンス(センター) (チーム回診)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習	病棟/ミニレクチャー (チーム回診)	ヒアリング(研修 担当) (チーム回診)	
16:00-回診	輪読会 病棟カンファレンス	16:00- 回診	ジャーナルクラブ	
休憩				



令和6年度より **5日間の研修プログラムを運用開始**

(複数ある対面式レクチャーについて、開始時に希望を確認し、特に重点的に研修を受けたい項目を選択して実施)

レクチャー内容は毎年更新 ※毎年アンケート調査を実施
・薬剤アレルギー/消化管アレルギーなども充実

9-17時 研修必須

月・火・木・金
疾患別初診
教室参加後に本診

総合アレルギー科行事

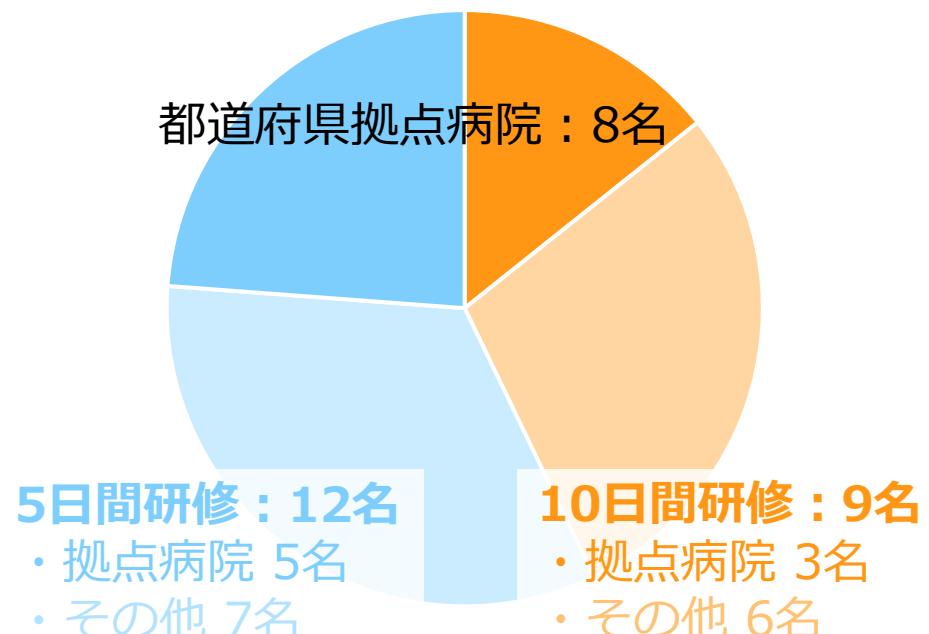
休憩

食物アレルギー教室	毎週木曜日、 第2火曜日、第3月曜日 10:00	消化管アレルギー 初診診察(教室なし)	第1,3火曜日 水曜日
喘息教室	第4火曜日 10:00	荨麻疹・薬剤アレルギー 初診診察(教室なし)	第1,3火曜日
SLIT教室	第1,3,5木曜日 13:30		
アトピー性皮膚炎教室	第1,2,4月曜日 9:45		
乳児教室	毎週金曜日 10:00		

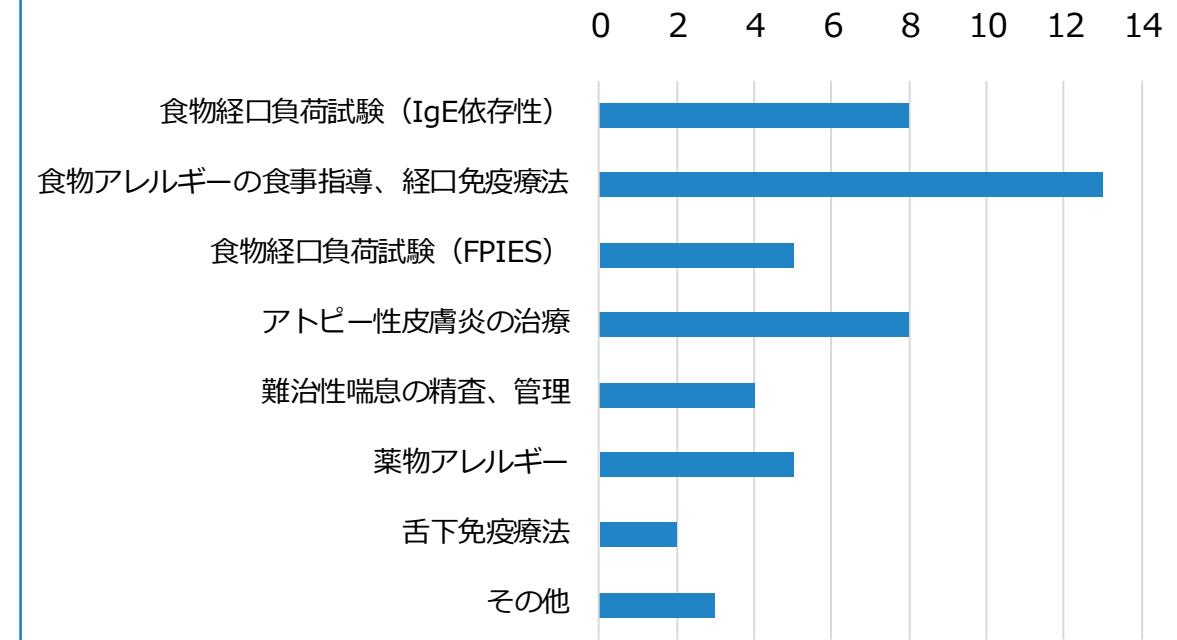
2025年度実績

- ・計21名（10日間 9名、5日間 12名）が参加（予定含む）
- ・内、都道府県拠点病院からの参加者は8名
→東北地方 3名、関東地方 1名、中部地方 2名、近畿地方 2名

研修参加者の内訳



特に研修したい分野 (N=16)



研修結果の評価（1）「知識・技能」

前後の回答が得られた研修参加者13名の結果を集計

食物アレルギー

1. 食物アレルギーの分類、鑑別疾患、診断法について説明できる
2. アレルゲンコンポーネントに基づいた食物アレルギーの診断ができる
3. (IgE依存性食物アレルギーについて) 食物経口負荷試験が必要な患者と保護者へ、目的、リスクを説明し、負荷食品の量、負荷時間間隔を設定して同意を取得することができる
4. 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、指示、処置オーダー、物品、投薬準備を行うことができる。その際のメディカルスタッフとの連携について理解している
5. 1日数例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
6. 二重盲検法など特殊な食物経口負荷試験について理解し、実施できる
7. 食物経口負荷試験の結果を参考に、具体的な摂取量や摂取方法、頻度を含めた食事指導を行うことができる
8. 食物抗原の特徴に合わせた食事指導ができる
9. アナフィラキシーの症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる（アドレナリン自己注射薬の処方、使用法の説明）

アトピー性皮膚炎

10. アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
11. アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
12. アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
13. アトピー性皮膚炎のスキンケア法（石鹼洗浄、外用薬塗布）を、必要なツールを準備して指導できる
14. アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
15. 寛解導入療法・寛解維持療法の概念について説明できる
16. アトピー性皮膚炎の外用薬による治療と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
17. アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤を含めた全身療法の適応とその方法について理解している

予防

18. アレルギー疾患発症のリスク因子と予防法について説明できる
19. 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
20. 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
21. 気管支喘息の悪化因子を挙げ、環境整備について指導できる
22. フロー・ボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者（保護者）に説明できる
23. 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者（保護者）に説明できる
24. 気道過敏性検査を行うことができる
25. 気管支喘息治療における生物学的製剤の適応と使用法について理解している
26. 重症度に応じた喘息長期管理薬を選択できる
27. 患児の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患児（保護者）に指導ができる
28. 喘息急性増悪時の対応を患者（保護者）に指導できる
29. 舌下免疫療法について、服用法、効果、副作用の説明ができる

喘息

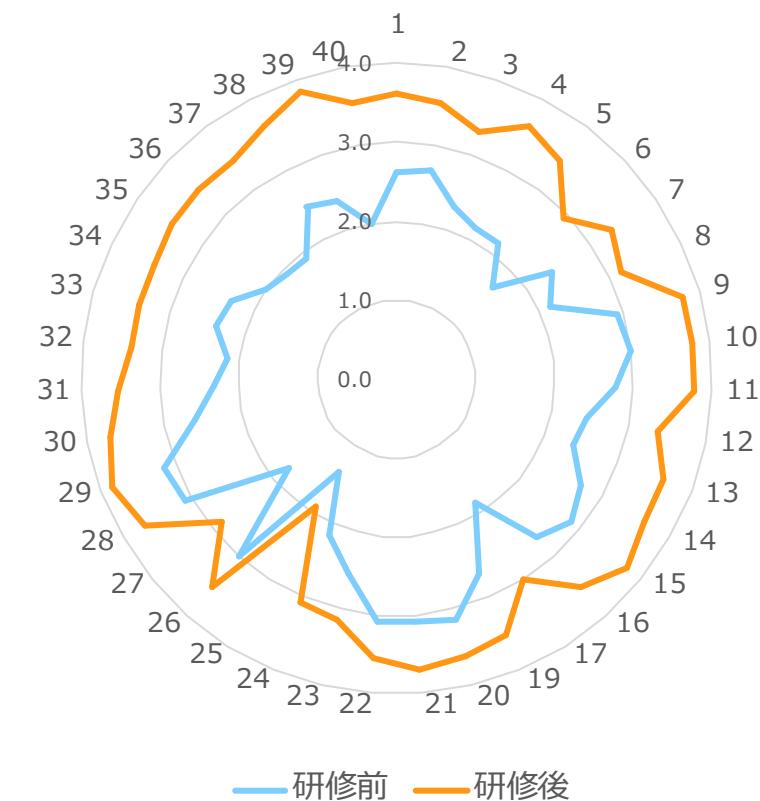
30. 食物蛋白誘発胃腸症の分類を説明できる
31. 食物蛋白誘発胃腸症の検査（経口負荷試験を含む）について説明できる
32. 食物蛋白誘発胃腸症の診断法や鑑別疾患を説明できる
33. 食物蛋白誘発胃腸症の管理法について説明できる

食物蛋白誘発胃腸症

34. 薬物アレルギーの定義・分類・臨床症状について説明できる
35. 薬物アレルギー評価の流れについて説明できる
36. 薬物アレルギー（の疑い）をもつ患者に対して、今後の方針について適切に説明できる
37. 皮膚テストの分類、適応を理解している
38. 皮膚ブリックテスト、皮内テスト実施時の注意点を挙げることができる
39. 皮膚ブリックテスト、皮内テストの手技を理解し、実施できる
40. 皮膚ブリックテスト、皮内テストの手技を理解し、実施できる

薬物など

知識・技能評価（研修前後）



研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応（満足度）
- ・学習（知識・技能）
- ・行動（実際の行動変容）について
参加者自身が評価（研修前・終了時）

研修結果の評価（2）「プログラム満足度」

● そう思わない ● あまりそう思わない ● ややそう思う ● そう思う

到達目標の項目数は、研修日数に対して適切であった

到達目標の項目は、自分のニーズに対して適切であった

研修各日のスケジュールの量(忙しさ・暇さ)はおしなべて平均化する
と適切であった

患者向けの教室見学は有用であった

看護指導(患者向け教室での看護指導を含む)の見学は有用であった

病棟における実習(スキンケアや、食物蛋白誘発胃腸症の負荷試験など)
の内容は十分であった

外来における実習(食物経口負荷試験や呼吸機能検査など)の内容は
十分であった

本教育プログラム用に作成された教材の内容・量は適切であった

ワークシートの使用は有用であった

レクチャー中の模擬症例検討は有用であった

到達目標の項目毎に担当指導医がつく制度は有用であった

メンターの機能は有用であった

ヒアリングの機能は有用であった

研修参加中の医療スタッフの態度は友好的で質問しやすい雰囲気で
あった

参加に関する事務サポートは適切であった



自由意見

- 自身の知識不足を実感し、学習意欲が高まった
- アレルギー診療の基礎から最新の診断・検査・治療まで体系的に学べた
- ガイドラインを踏まえつつ、より実践的・具体的な診療を学べた
- 日常診療の疑問点が解消され、診療の質向上につながる内容だった
- 患者・家族への説明や患者教育の重要性を理解できた
- 経口免疫療法における工夫や加工品の活用が参考になった
- 短期間でも非常に密度の高い研修だった
- 外来見学、検査、カンファレンス、レクチャーが充実していた
- 指導が丁寧で、質問しやすい雰囲気だった
- 学んだ知識・経験を今後の診療に活かしたいという意欲が高まった

その他の研修事業（A研修①）

令和7年度 成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー
国立成育医療研究センター第30回アレルギー臨床懇話会のご案内

◆東京都アレルギー疾患治療専門研修◆

今回のアレルギー臨床懇話会では、特別講演として順天堂大学工藤孝広先生にご登壇いただき、好酸球性消化管疾患と機能性消化管疾患に関するご解説を頂きます。診療経験が豊富な工藤先生に病態や診療のポイントや、最近の進歩についてご解説頂きます。大変貴重な聴講の機会ですので、ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

対象 子どものアレルギーに関心のある医療従事者

日時 2025年8月28日（木） 19:00 ~ 20:30

会場 WEB開催（Zoomウェビナーでのライブ配信）

現地会場：国立成育医療研究センター研究所2階 セミナールーム

閉会の辞

一般演題 19:00~19:30 座長： 笹本明義 先生・津田正彦 先生
消化管アレルギー・好酸球性消化管疾患の臨床

1. 『初期症状から重症例まで：新生児・乳児期消化管アレルギーの実臨床』

アレルギーセンター総合アレルギー科 神保智里 先生

2. 『心理療法が奏功した難治性再発性好酸球性十二指腸炎の男児例』

アレルギーセンター総合アレルギー科 谷口智城 先生

特別講演 19:30~20:30

座長：アレルギーセンター消化管アレルギー科 新井勝大 先生

『好酸球性消化管疾患と機能性消化管疾患』

順天堂大学医学部小児科学講座 先任准教授 工藤 孝広 先生

閉会の辞

※取得単位：日本アレルギー学会専門医制度 2単位
日本医師会生涯教育制度 1.5単位 (CC51, 53)

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

WEB参加：先着500名様までとさせていただきます。

<代表世話人> 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 福家辰樹

<事務局> 豊國 早瀬（国立成育医療研究センターアレルギーセンター）

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

主催：国立成育医療研究センターアレルギー臨床懇話会

第30回成育アレルギー臨床懇話会 (東京都アレルギー疾患治療専門研修として開催)

令和7年8月28日（木）Zoomウェビナーによるライブ配信

一般演題：

「初期症状から重症例まで：新生児・乳児期消化管アレルギーの実臨床」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 神保 智里

「心理療法が奏功した難治性再発性好酸球性十二指腸炎の男児例」

国立成育医療研究センター アレルギーセンター 谷口 智城

特別講演：「好酸球性消化管疾患と機能性消化管疾患」

順天堂大学医学部 小児科学講座 工藤 孝広 先生

493名の方にご参加いただきました



その他の研修事業（A研修②）

成育アレルギー中心拠点病院 オンラインセミナー

月1回開催

臨床分野と基礎分野が隔月で担当

- **臨床**（アレルギー臨床勉強会）
担当：国立成育医療研究センター アレルギーセンター
- **基礎**（免疫アレルギーTerakoya勉強会）
担当：国立成育医療研究センター 免疫アレルギー研究部

2025年度
医療従事者向け無料セミナー

今年度は木曜（オンラインのみ）/金曜（ハイブリッド開催）の予定ですのでご注意ください

セミナー・シンポジウムのご案内

成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー

WEBINAR

- 4月17日（木）アレルギー臨床勉強会
「薬物アレルギーの管理について」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 平井聖子/鈴木大地
- 5月16日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「かゆみ研究によって明らかになってきた様々なかゆみの原因とその治療標的」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 溜雅人
- 6月26日（木）アレルギー臨床勉強会
「食物アレルギー児の安心な食生活を目指して」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 福家辰樹/豊國賢治
- 7月4日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「疫学データと病態研究からみる好酸球性消化管疾患」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明
- 8月28日（木）アレルギー臨床勉強会・アレルギー臨床懇話会・東京都アレルギー治療専門研修
「消化管アレルギー・好酸球性消化管疾患の臨床」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 神保智里/谷口智城
- 9月5日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「免疫研究者から見た「副作用・副反応」について」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 松本健治
- 10月16日（木）アレルギー臨床勉強会・東京都アレルギー医療連携研修会
「新生児乳児食物蛋白誘発胃腸症」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 梅沢光太郎/消化器科 竹内一朗
- 「好酸球性消化管疾患」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 豊國賢治/消化器科 新井勝大
- 11月7日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「神経系によるアレルギー炎症制御の臓器特異性と臓器連関」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 溜雅人
- 「アレルギー性気道炎症における自然免疫と獲得免疫のクロストーク」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 長野直子
- 12月18日（木）アレルギー臨床勉強会
「ここが知りたい！アトピー性皮膚炎Q&A本音トーク」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 山本貴和子
名古屋市立大学大学院医学研究科 環境労働衛生学分野 大矢幸弘
- 1月16日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「妊娠と免疫 アレルギー疾患との関連も含めて」
国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 女性免疫バイオメディカル室 本村健一郎
- 2月19日（木）アレルギー臨床勉強会
「Planetary Health and Allergy」
University of Western Australia Prof. Susan Prescott
- 3月14日（金）免疫アレルギーTerakoya勉強会
「アレルギー診療の今後の展望～技術進歩によりアレルギー診療がどう変わるのか～」
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明

参加者数

438人

295人

381人

245人

493人

237人

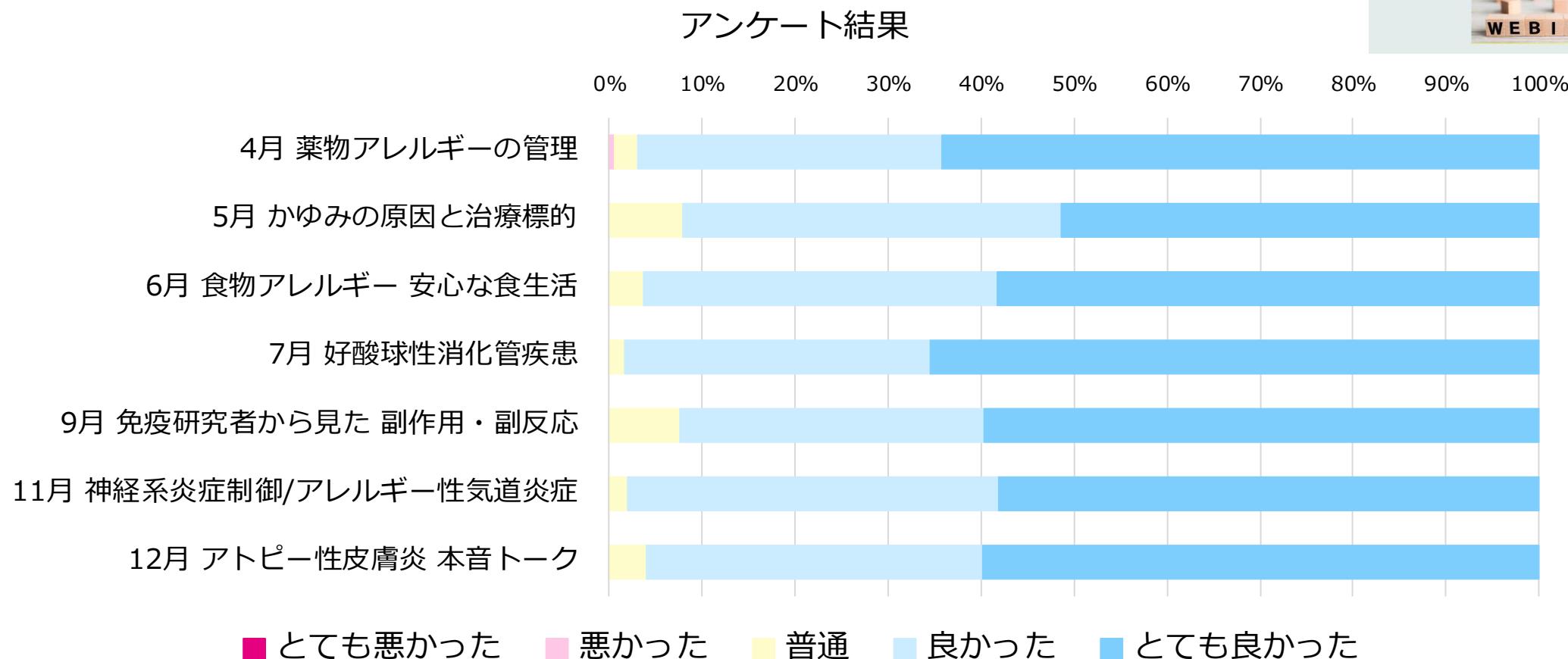
482人

207人



その他の研修事業（A研修②）

成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー アンケート結果（4月～12月）



C/D研修 アレルギーセンター総合アレルギー科フェロー（専門修練医）

研修の位置づけ・狙い

- ✓ 小児の重症・難治アレルギー疾患を、入院～外来で一貫して担当
- ✓ 各種検査・患者指導等の診療技術を体系的に習得
- ✓ 英語文献検索と多読・精読を通じ、Evidence-based practice の設計力を強化
- ✓ 臨床研究に参画し、拠点病院リーダー/Physician-Scientist志向のキャリア形成を支援

主な到達目標

- ✓ 担当疾患：重症アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギー、消化管アレルギー、薬剤アレルギー、HAE等
- ✓ 難治ケースの個別治療計画（薬物療法+行動療法）を立案実施
- ✓ 各種負荷試験（薬物・食物・運動等）の習得
- ✓ 呼吸機能検査（スパイロ、IOS、FeNO）、気道過敏性検査（メサコリン、運動）
- ✓ 皮膚テスト（プリック、皮内、パッチ）と結果解釈
- ✓ 患者教育（個別・集団・テラーラ化）と、退院後外来での寛解維持期治療
- ✓ 退院患者フォローに加え、初診を含む外来診療の比重を増やし総合力を強化
- ✓ 国内外での学会発表（症例報告/横断研究）を担当
- ✓ 臨床研究実務：ランダム化比較試験、出生コホート研究等

国立成育医療研究センターアレルギー関連 英文誌掲載数

- ✓ 2025年：46論文、2024年：26論文（全体）

現フェロー2年目 筆頭
英文論文数：6 (3+3)



電話相談事業 2025年の実績

期間：2025年1月1日～12月31日の12か月間

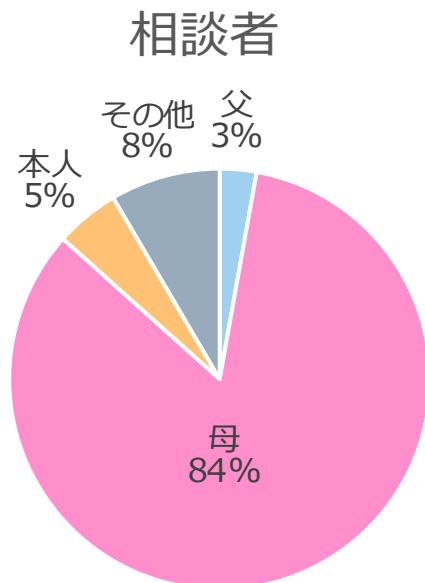
相談件数：144件（前年151件）



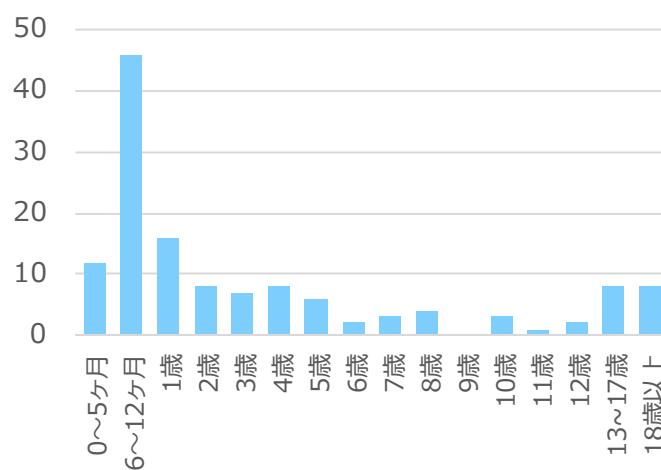
【概要】

- ・患者・家族からの電話相談事業
- ・医師による、週2回、1回1時間の電話相談
- ・相談時間は1回につき15分以内とする

相談者の背景

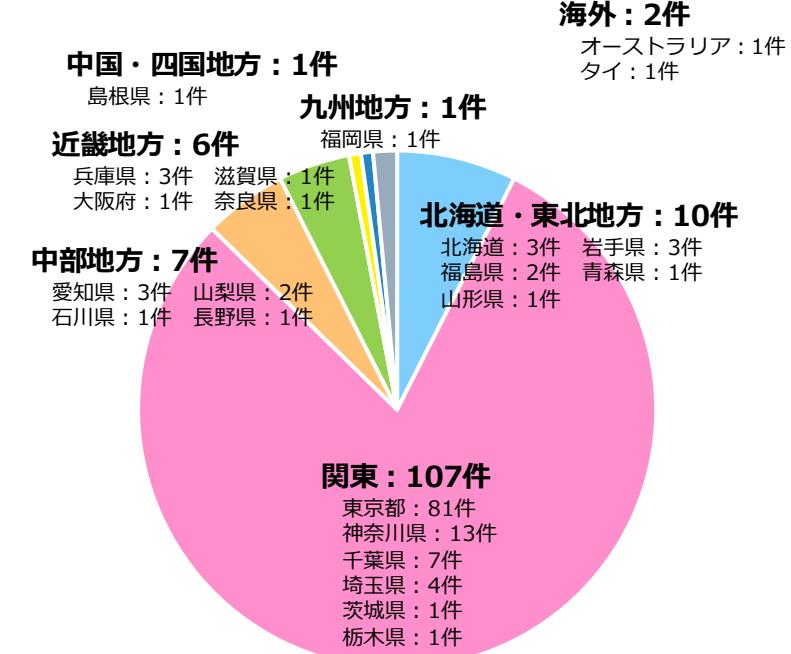


人数



21都道府県から相談あり

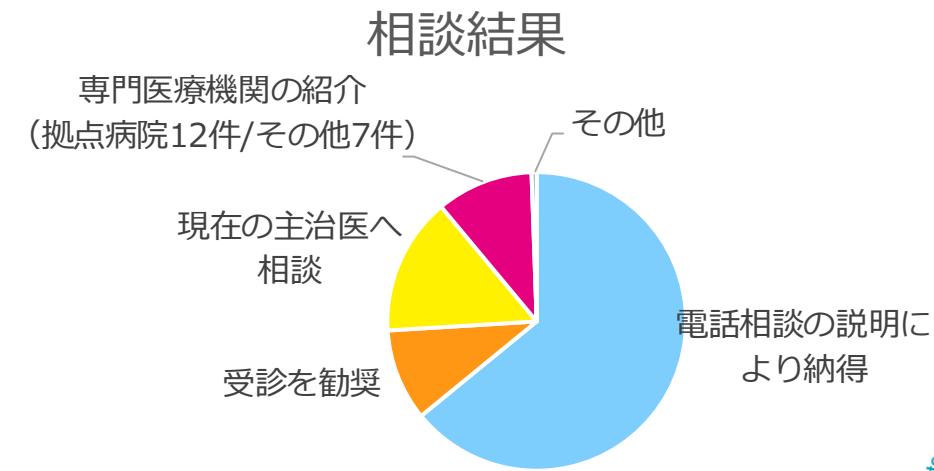
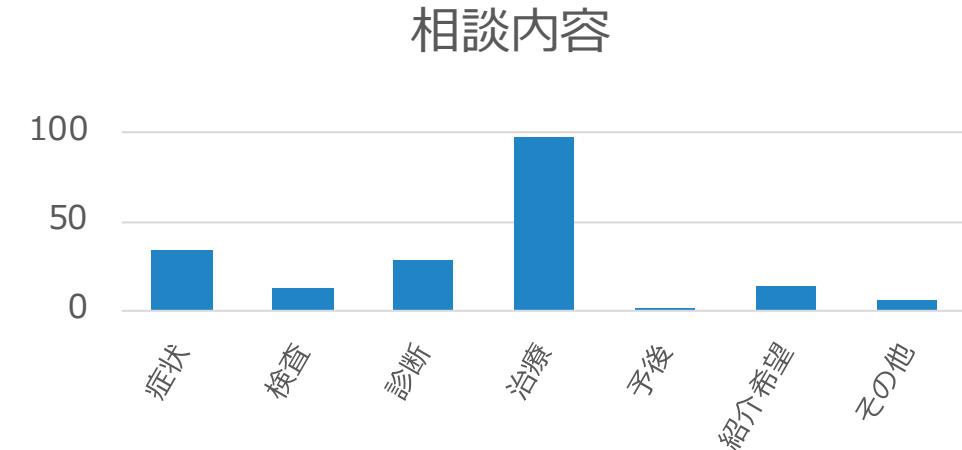
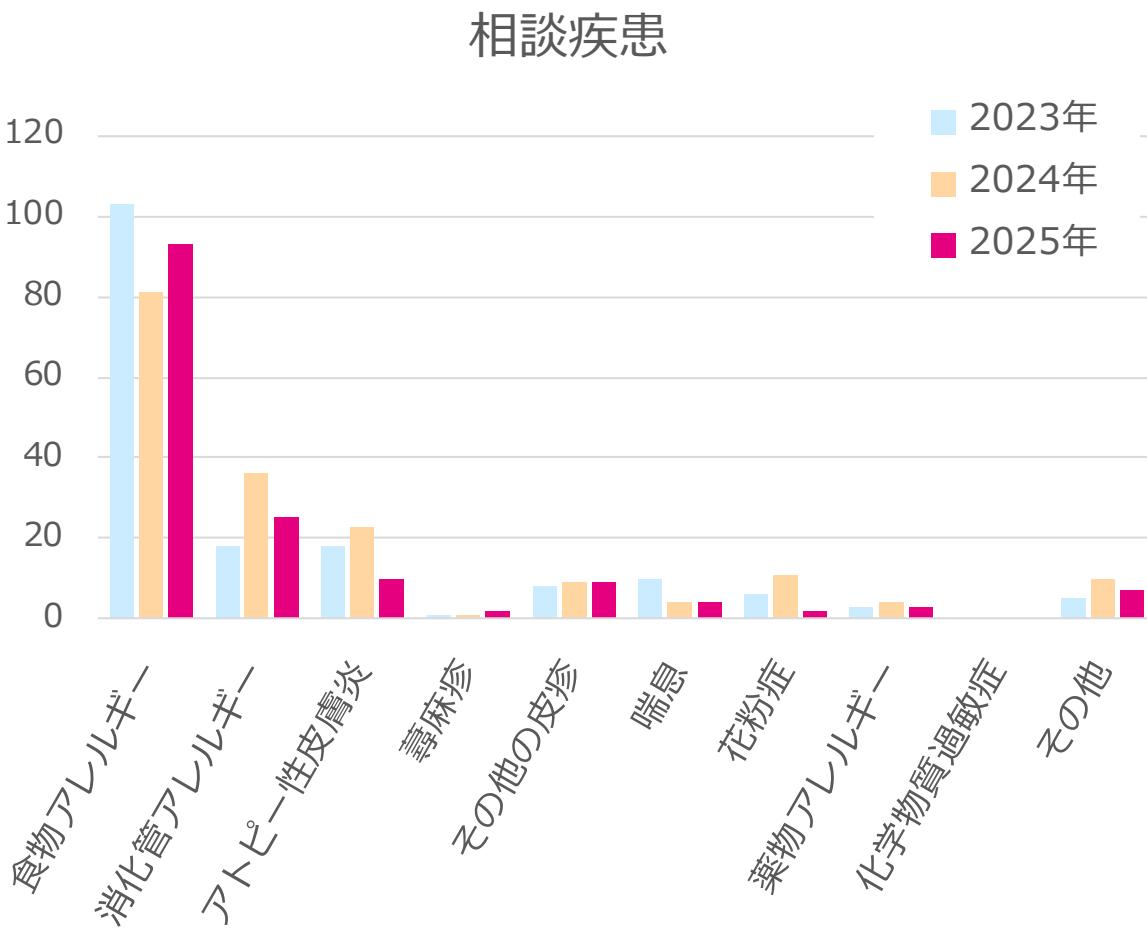
居住地



電話相談事業 2025年の実績

期間：2025年1月1日～12月31日の12か月間

相談件数：144件（前年151件）



妊娠・授乳期におけるアレルギー情報発信

妊娠のみなさまへ
「生まれてくるお子さんのための
アレルギー予防オンライン教室」

インターネット情報に振り回されていませんか!?

アレルギー疾患をもつお子さんが増えてきています。
妊娠中から正しいアレルギーの知識を身につけることが大切です。
最近の研究情報からアレルギーに関する正しい知識を学び、お子さんのアレルギー疾患
発症予防や早期発見に役立てるためのオンライン教室を開催しています。

開催日
注)2026/1~開催頻度が変わります
2026年1月より 年3回開催(1月、5月、9月予定)
(※開催日程はお申込みフォームでご確認いただけます)

講師
*開催回によって担当講師が異なります
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 医師

開催方法
ZoomによるWeb開催。
お申込みいただいた方へURLのご案内をさせていただきます。

参加対象者
妊娠している方
妊娠している方のパートナー

申込方法
下記QRコードよりアクセスし、申込フォームにてお申込みをお願いいたします。

QRコード
♦URLをお知らせさせていただいた方以外はご参加いただけませんのでご容赦ください。
♦参加費は無料です。
♦当院HP「アレルギーセンター」ページ内「お知らせ」からもアクセスいただけます。

※ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。
＜問合せ先＞
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
アレルギーセンター 研究事務局
TEL:03-3416-0611
E-mail:allergy_research@ncchd.go.jp

妊娠中から正しいアレルギーに関する正しい知識を学び、
お子さんのアレルギー疾患発症予防や早期発見に役立てる
ためのオンライン教室を開催しています。

アレルギーポータル

アレルギーについて よくある質問 医療機関情報 アレルギーの本懸 災害時の対応 日本の取り組み 研修・講習会・eラーニング 都道府県のサイト

研修・講習会・eラーニング
行政・学校関係者の方向け

食物アレルギーセミナー～共に創ろう 笑顔あふれる食の未来～(2022年度)
栄養士・食従事者の方向けのセミナーで、3/5(日)13:00から予定されています。オンライン、会場参加とも、申込は2/24(金)締切となっています。

アレルギー相談員養成研修会
アレルギー疾患に関して患者やその家族と接する機会が多いアレルギー専門医以外の医師、看護師、保健師、薬剤師、栄養士などを対象としています。

食物アレルギーセミナー“安全で安心な子どもの笑顔を守る食の未来”(2022年度)
保育者の方向けのセミナーで、11/27(日)12:30から予定されています。Web参加、会場参加とも、申込は11/8(火)締切となっています。

生まれてくるお子さん
のためのアレルギー予防
オンライン教室
妊娠中から正しいアレルギーに関する知識を身につけていたくため、定期的に開催されています。主に妊娠さんとそのパートナーの方が対象となっています。

文部科学省補助事業
アレルギー講習会
(学校における普及啓発講習会)
学校現場においてのアレルギー対応の充実を図るために講習会です。

食物アレルギーによって
起こる症状と治療について
食物アレルギーの症状とその治療法を学ぶ研修用スライドです。アナフィラキシーに対処するための動画も掲載されています。

その他管理栄養士の監修で離乳食調理動画なども配信予定

(追) アレルギーセンター患者支援カンファレンス

お子さん（またはご自身）のアレルギーのために
生活やお仕事に支障が出ていませんか？

■当センターは厚生労働省「免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業」に取り組んでいます！
厚生労働省は、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」を発表し、がんなどの疾病を抱えた患者さんが治療のために仕事をやめることのないよう、職場における取組みを支援しています。

■アレルギー疾患の患者家族においても支援が必要とされています
近年の調査では、アレルギー疾患のために就職が不利になったり仕事内容が制限されたり、仕事のせいで通院ができず症状が悪化する方や、お子さんのアレルギー疾患のために仕事が制限されてしまう場合が一定数あるという問題が明らかになっています。

■治療と仕事の両立や、生活でのお悩みなど、両立支援コーディネーターがお手伝いします
成育などのアレルギー疾患医療拠点病院では「両立支援コーディネーター（ソーシャルワーカー）」を中心に、患者さんやご家族の個々の治療、生活、勤務状況に応じた、治療と仕事の両立に関する支援を行っています。

両立支援コーディネーター（ソーシャルワーカー）は、治療と仕事の両立を希望する患者さん（保護者さん）の、治療や業務等の状況に応じた必要な配慮・情報共有し支援します。
ご希望の方は、お気軽に患者相談窓口（1階）までご相談ください。

アレルギーセンター総合アレルギー科 外来

治療と仕事の両立が
当たり前の社会に!
アラカルト

治療と仕事の両立支援
ムービー&マンガ公開中!

QRコード

外来配布用チラシ

日時：月1回（第2火曜日PM）定期開催
参加：医療ソーシャルワーカー、医師など
(両立支援コーディネーター基礎研修者含む)

内容：主に入院患者を中心に、

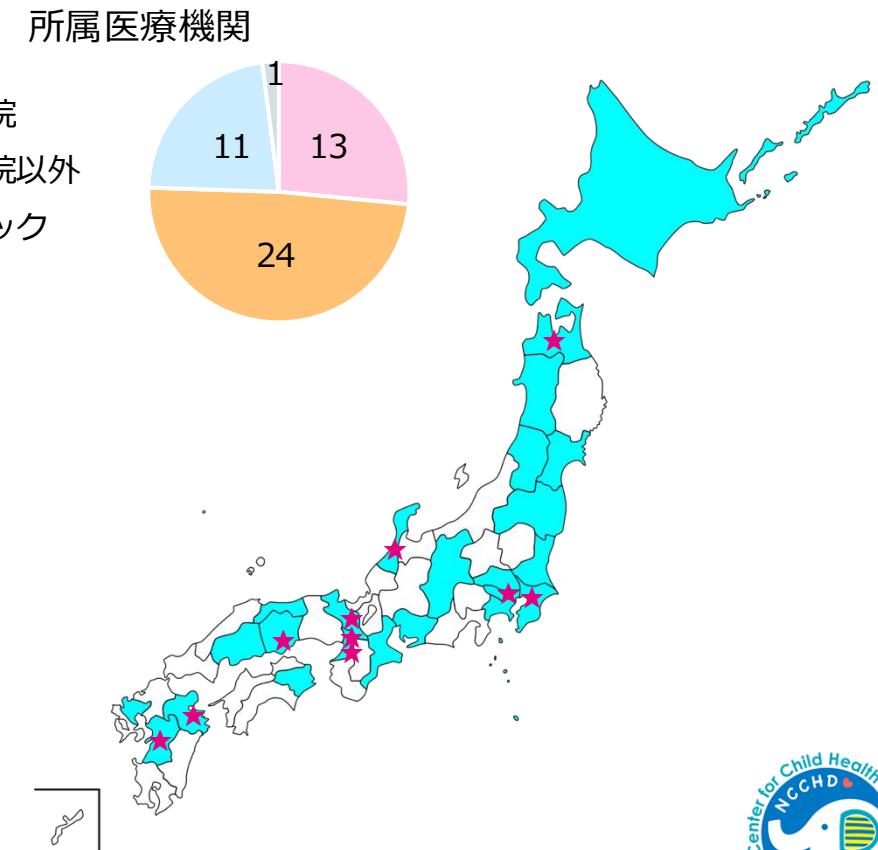
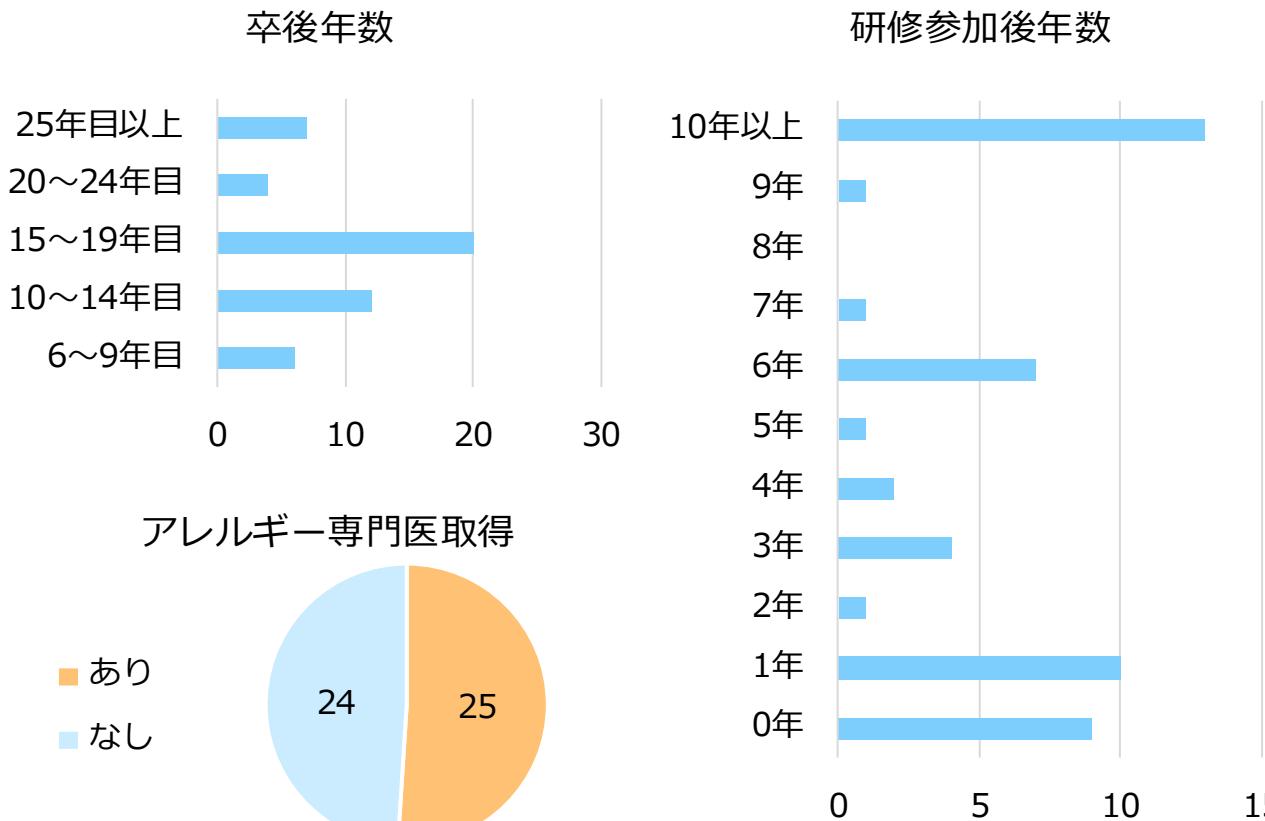
- 就労支援・就労継続支援
 - 経済的支援（医療費助成等の案内含む）
 - 社会復帰・復学支援（学校との連携等）
 - 心理社会的支援（育児支援含む）
 - 退院支援（退院後の社会資源）
 - 受診受療支援（他院受療への連携等）
 - その他家族への支援
- などについて情報交換

連携体制強化により
MSW介入事例↑



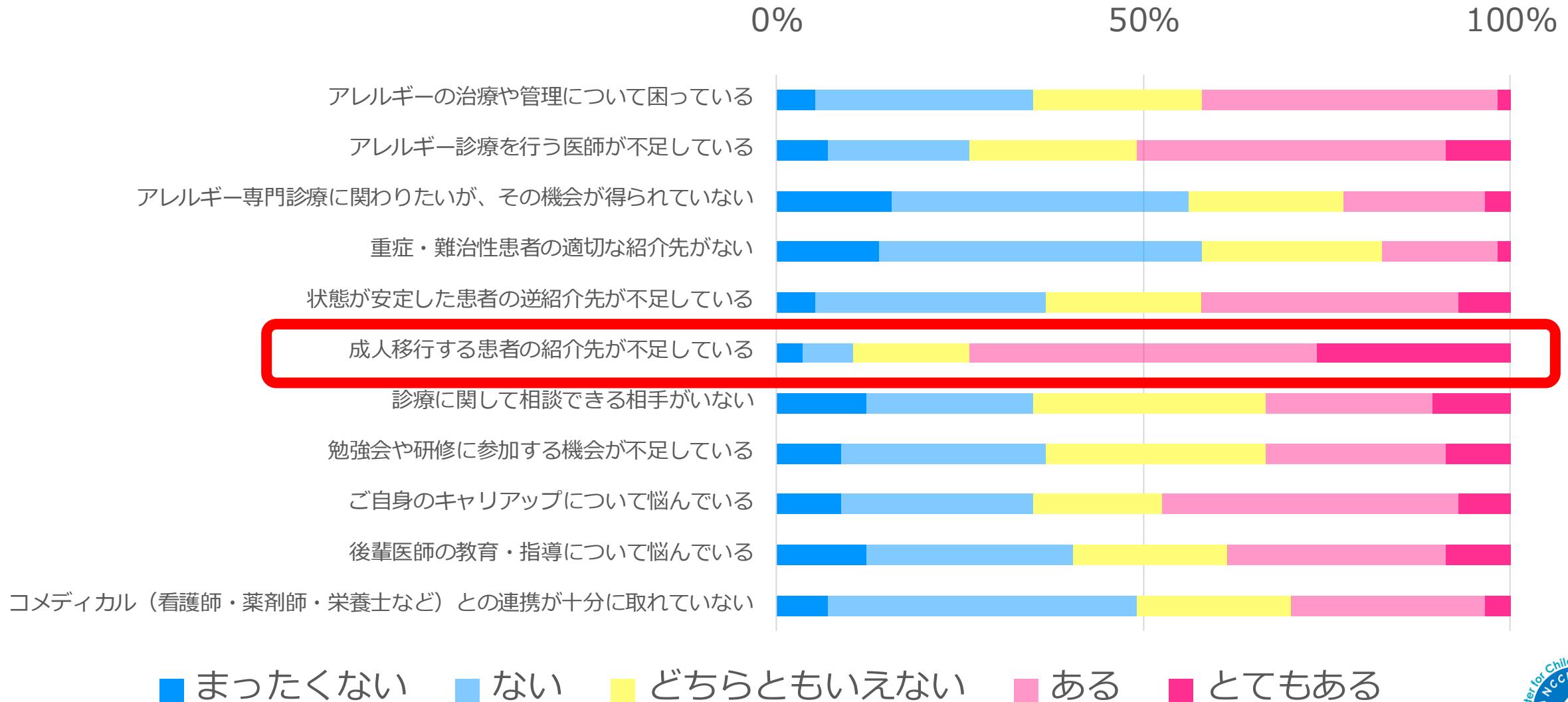
短期研修参加者アンケート

- ・ 短期研修参加者の現在の困りや、当センターが求められているニーズを把握するためにアンケート調査を実施（2025年12月）
- ・ 回答数：49



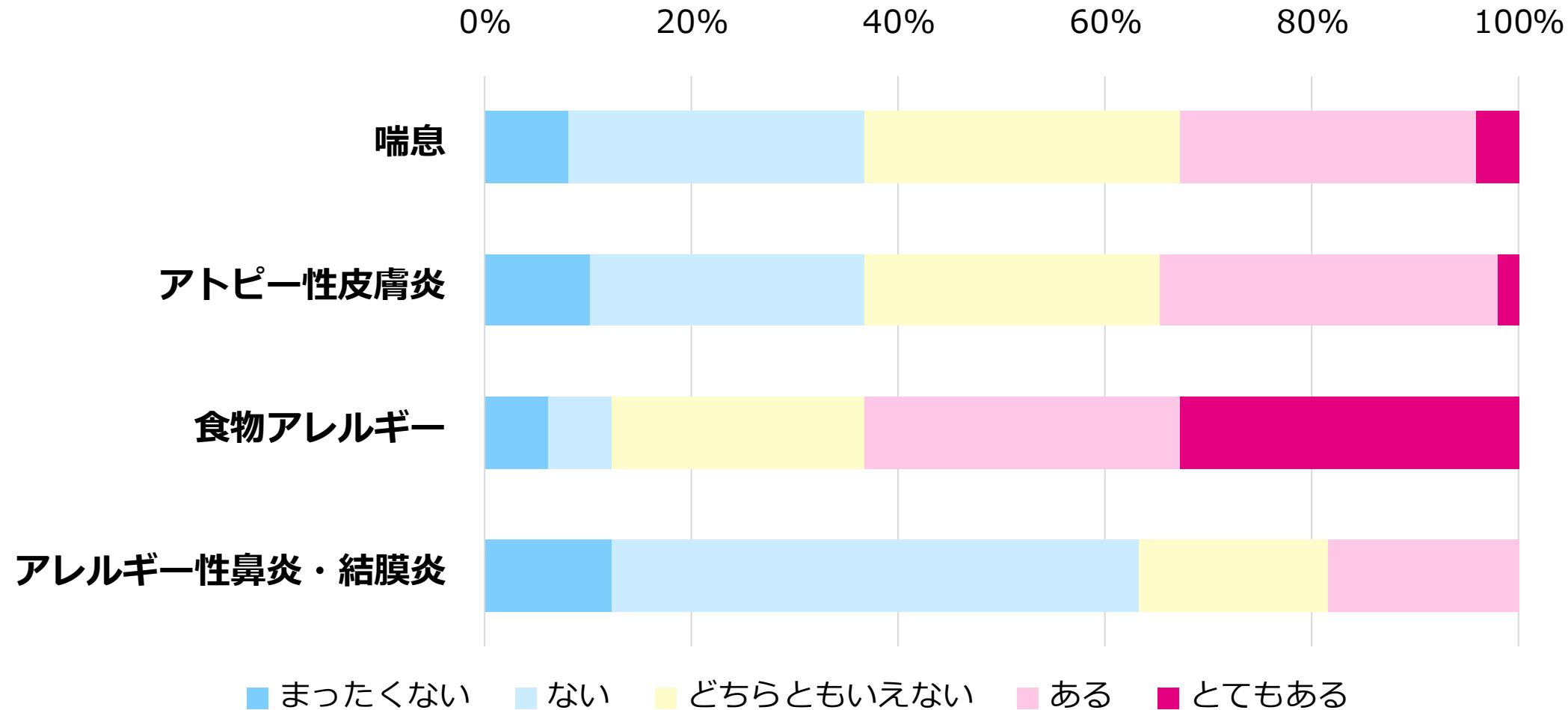
昨年度アンケート結果から

現在困っていること：2024年度 (N=57)



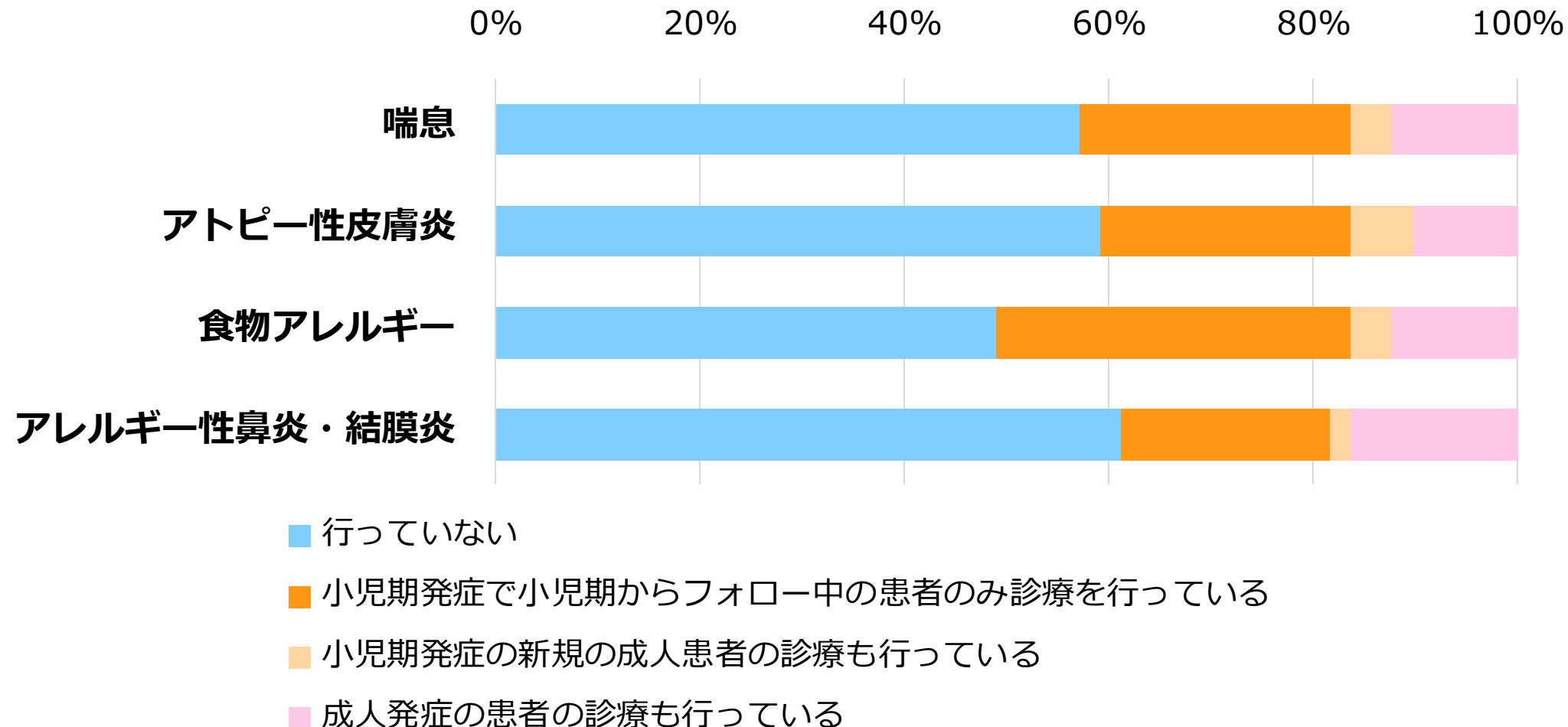
移行期医療について（2025年度アンケート）

日頃の資料で移行期医療（成人科への移行）についてお困りですか？



移行期医療について（2025年度アンケート）

成人（18歳以上）の診療を行っていますか？



移行期医療について（2025年度アンケート）

アレルギー診療の移行期医療について、困りごとや課題（自由記載）

- ・ 成人の食物アレルギー（特に食物負荷試験・経口免疫療法）を診療できる施設が極めて少ない
 - ・ 成人の食物負荷試験を実施している医療機関がほぼない
 - ・ 経口免疫療法を継続できる成人診療科がほとんどない、小児科で継続せざるを得ない
 - ・ 紹介先が決まらない／紹介できる成人診療科が少ない
 - ・ 喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など複数疾患を一括して診られる成人医療機関がない
 - ・ 成人領域の「トータル・アラジスト」が少ない
 - ・ 転居後に治療継続できず、ドロップアウトする患者が少なくない
 - ・ 成人患者に対して、移行の「きっかけ」をつかめない
 - ・ 患者・家族が小児科への通院継続を強く希望し、移行に前向きでない
 - ・ 内科・耳鼻科は待ち時間が長いなどの理由で移行を拒まれる
- など

特に、**食物アレルギー**の成人移行に対する課題が多い

→2026年度は**成人食物アレルギー・移行支援をテーマとした研修会**の開催を予定



その他

アレルギー診療や関連業務において具体的にお困りのことや課題（自由記載）

- ・マンパワー・時間不足：外来逼迫、負荷試験・指導の実施制限
 - ・負荷試験・OITの受け皿不足：特にナツツアレルギーで顕著、紹介先も飽和
 - ・成人移行の困難さ：高校生以降の受診先が乏しい
 - ・アトピー性皮膚炎診療の難しさ：外用・プロアクティブ療法の指導とアドヒアランス
 - ・専門医・相談先不足：地域格差が大きく、気軽なコンサルト体制がない
 - ・スタッフ教育・体制整備の遅れ：マニュアル化・タスクシフトが進まない
 - ・制度・報酬の壁：頻回OFCや検査コストが実臨床に合わない
 - ・検査・診療の質のばらつき：不要な検査、治療適応の不統一
 - ・食事・栄養指導の困難さ：多品目アレルギー・完全除去例への対応
 - ・研修・学習機会の制約：地域・家庭背景による教育機会格差
- など

当センターにどのようなことを求めますか？（自由記載）

→ 「研修会の開催」 や 「症例相談体制の整備」 についての意見が多かった